

## 2 沿革と主な施設整備年表

京都大学大学院理学研究科附属天文台は花山天文台と飛騨天文台より構成されている。飛騨天文台は、世界第一級の高分解能をもつドームレス太陽望遠鏡、太陽磁場活動望遠鏡、東洋一のレンズをもつ65 cm 屈折望遠鏡などを用いて観測の最前線に立ち、花山天文台は、データ解析研究センターとしての役割を担うと共に、大学院・学部学生の観測研究実習及びデータ解析研究実習を実施している。

昭和4年(1929年)10月	花山天文台設立
昭和16年(1941年)7月	生駒山太陽観測所(奈良県生駒郡生駒山)設立
昭和33年(1958年)4月	花山天文台及び生駒山太陽観測所を理学部附属天文台として官制化
昭和35年(1960年)3月	花山天文台に、60 cm 反射望遠鏡完成
昭和36年(1961年)3月	花山天文台に、現在の太陽館と70 cm シーロスタット完成
昭和43年(1968年)11月	飛騨天文台設立、管理棟・本館・60 cm 反射望遠鏡ドーム完工、60 cm 反射望遠鏡を花山天文台より移設、開所式挙行政
昭和44年(1969年)3月	花山天文台のクック30 cm 屈折望遠鏡を改造し、ツァイス45 cm レンズを搭載
昭和47年(1972年)3月	生駒山太陽観測所閉鎖
昭和47年(1972年)4月	飛騨天文台に、65 cm 屈折望遠鏡及び新館完成、竣工式挙行政
昭和54年(1979年)5月	飛騨天文台に、ドームレス太陽望遠鏡完成、竣工式挙行政
昭和63年(1988年)3月	飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡駆動コンピューター更新
平成3年(1991年)3月	飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡塔体パネル一部修理工事完了、飛騨天文台15 m ドーム駆動装置更新工事完了
平成4年(1992年)3月	飛騨天文台に、太陽フレア監視望遠鏡及びドーム完成
平成8年(1996年)3月	花山天文台にデジタル専用回線導入
平成8年(1996年)11月	飛騨天文台研究棟及び管理棟外壁等改修工事施工
平成9年(1997年)3月	飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡に高分解能太陽磁場測定装置新設
平成10年(1998年)10月	飛騨天文台専用道路に光ケーブル敷設工事施工 高速データ通信回線(384 Kbps)開通
平成11年(1999年)3月	花山天文台18 cm 屈折望遠鏡に太陽H $\alpha$ 単色像デジタル撮影システム完成
平成11年(1999年)11月	花山天文台デジタル専用回線を128 Kbpsから1.5 Mbpsに高速化、飛騨天文台研究棟・管理棟改修工事及び管理棟合併浄化槽敷設工事施工
平成12年(2000年)9月	飛騨天文台デジタル通信回線を1.5 Mbpsに高速化、かつ専用回線に切替え

平成 13 年 (2001 年) 3 月	飛騨天文台 65 cm 屈折望遠鏡 15 m ドームスリット等改修工事完了
平成 14 年 (2002 年) 3 月	花山天文台建物等改修工事施工
平成 15 年 (2003 年) 3 月	飛騨天文台に太陽活動総合観測システム (SMART 望遠鏡ほか) 新設
平成 15 年 (2003 年) 11 月	飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡塔体冷却システム改修工事完了
平成 17 年 (2005 年) 5 月	3.8m 望遠鏡開発に対し、藤原洋氏 (インターネット総合研究所代表取締役) が支援開始
平成 18 年 (2006 年) 3 月	飛騨天文台にダークファイバーと岐阜情報スーパーハイウェイを利用した高速データ通信回線 (100 Mbps) 開通
平成 18 年 (2006 年) 8 月	花山天文台にダークファイバー利用の高速データ通信回線 (1 Gbps) 開通
平成 20 年 (2008 年) 12 月	飛騨天文台研究棟耐震補強工事施工
平成 22 年 (2010 年) 3 月	フレア監視望遠鏡を飛騨天文台からイカ大学 (ペルー) へ移設
平成 25 年 (2013 年) 1 月	花山天文台が京都市の“京都を彩る建物や庭園”に選定される
平成 25 年 (2013 年) 12 月	3.8 m 望遠鏡建設の概算要求 (補正予算) 措置決定
平成 27 年 (2015 年) 1 月	3.8 m 望遠鏡用ドームの概算要求予算措置決定